

■(孔子 論語・卷第一・為政第二)

子曰、学而不思則罔、思而不学則殆

「学んで思わざれば則ち罔し、思うて学ばざれば則ち殆うし」

|| 学んでも考えなければ(物事は)はつきりしない。考えても学ばなければ(独断に陥って)危険である。

■(佐藤一斎 言志晩録六十条)

少而学則壯而有為、壯而学則老而不衰、老而学則死而不朽

「少くして学べば則ち壯にして為すこと有り、壯にして学べば則ち老いて衰えず、老いて学べば則ち死して朽ちず」

|| 若くして学べば、大人になって世のため人のために役に立つ人間になることができる。壮年になって学べば、年をとっても衰えずいつまでも活き活きしていることができる。年をとって学べば、身体は死んでしまってもその精神は影響を受けた人の心に引き継がれ永遠に残り続ける。

↓ 貝原益軒「人生まれて学ばざれば、生まれざるに同じ。学んで道を知らざらば学ばざるに同じ。知って行わざれば知らずに同じ」

■(細井平洲 嚶鳴館遺草)

学思行、相須

「学、思、行、相須あいまつ」

|| 学び、考え、実行することの三つがそろって、初めて「学んだ」ことになる。

(参考) 平洲曰く… 本当の教育というものは、菊を作ったり蘭を作ったりするのは違う。農家が菜っ葉大根を作るのと同じ事である。菊作り、蘭作りというのは特殊教育、特別な人間が特別な目的でやることであって、一般の人間学、人間教育というものは、農家が菜っ葉大根を作るように、育ちが良いものも悪いものも一様に大事に可愛がって、瓜は瓜なりに、茄子は茄子なりに作り上げることである。